

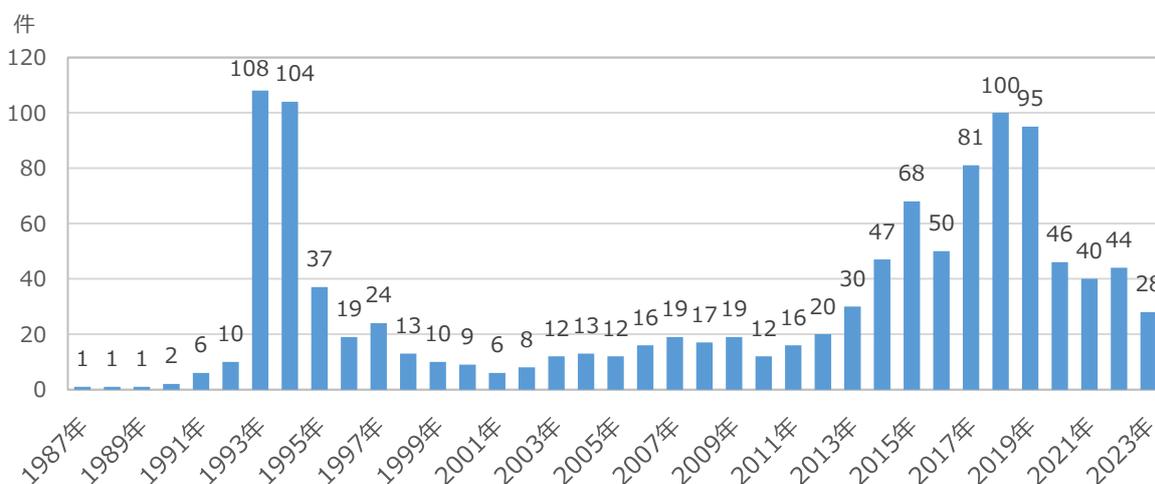
防水スプレーを吸い込む事故に注意しましょう！ —梅雨は事故が増える時期です—

1. 防水スプレーを吸い込む事故について

防水スプレーは、衣類や傘などの繊維製品、かばんや靴などの皮革製品の表面にスプレーすることで、手軽にはっ水加工ができる製品です。便利な製品ですが、適切に使用しないと、重篤な健康被害を起こすことがあります。

過去には、1992年から1994年のスキーシーズンに、防水スプレーを室内等で使用して吸い込み、呼吸困難や肺炎等で入院する事故が多発し、中毒110番には多くの相談が寄せられました¹⁾。これをきっかけに、厚生省（当時）、製造事業者等により、防水スプレーの安全対策が取られ²⁾、その後も見直しが行われています³⁾⁴⁾。現在では、エアゾール製品には「注意」「吸い込むと有害・必ず屋外で使用」という製品表示がされています。

しかしながら、中毒110番には現在でも「防水スプレーを吸い込んでしまった」という相談があり、2018年および2019年は年間約100件の相談がありました。2020～2022年は、新型コロナウイルス感染症の流行により外出の機会が減ったことも影響してか、相談件数は減少しました。今年も6月に入って梅雨入りした地域もあり、これから防水スプレーを使用する機会が増えると、事故も増える可能性があります。



防水スプレーを吸い込んだ事故に関する中毒110番への相談件数

2. 防水スプレー使用時の事故の特徴

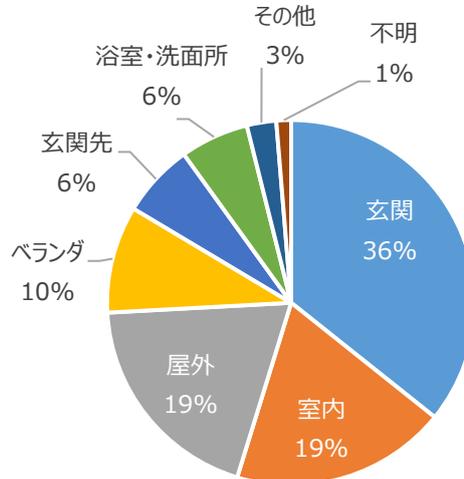
2019～2023年に相談があった吸入事故253件のうち、232件（92%）が防水スプレーを使用した際の事故でした。使用時の事故232件の特徴は次のとおりです。

✓ **雨や雪のシーズンに事故が起こっています！**

- ・ 事故の発生が多かった月は、1月32件（14%）、6月24件（10%）、7月23件（10%）、10月21件（9%）でした。

✓ **屋内はもちろん、屋外でも風向き等で吸い込む事故が起こっています！**

- ・ 屋内で使用した事例が多く、玄関83件（36%）、室内44件（19%）、浴室・洗面所14件（6%）でした。
- ・ そのほか屋外45件（19%）、ベランダ22件（10%）、玄関先15件（6%）でした。屋外では風向きが変わり吸い込んだ事例などがありました。



防水スプレーを使用した場所（n=232）

✓ **マスクを着用せずに使用して吸い込む事故が起こっています！**

- ・ マスク着用の有無が確認できた166件中131件（79%）がマスクを着用していませんでした。

✓ **大半の事例で症状が出ています！**

- ・ 232件中165件（71%）で咳や息苦しさ、頭痛、発熱等の症状を認めました。入院が必要となった例もありました。

3. 防水スプレーを吸い込む事故を防ぐには

どんな製品であっても、正しく使用しないと健康被害が出る可能性があります。使用前には、まず製品の説明書きをよく読み、よく理解した上で正しく使用することが大切です。

特に防水スプレーでは、健康な成人であっても、入院を必要とした例は少なくありません。使用者、周囲の人ともに絶対に吸い込まないように、次の点に注意して使いましょう。

- ✓ **使用前に製品表示、特に「使用上の注意」をよく読んでから使用する**
- ✓ **マスクを着用し、必ず風通しの良い屋外で使用する**
- ✓ **周囲に人、特に子どもなどがないことを確認してから使用する**

4. 万一吸い込んでしまった場合は

早めに医療機関や日本中毒情報センターにご相談ください。

公益財団法人日本中毒情報センター 中毒110番電話サービス（一般向け 365日 24時間対応）

■大阪中毒110番 072-727-2499 ■つくば中毒110番 029-852-9999

● **東京都消費生活総合センターの情報も参考にしてください。**

防水スプレーを安全に使いましょう-注意喚起リーフレットを作成しました-

https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.lg.jp/anzen/kyougikai/r2/r2_leaflet.html

5. よくある質問

Q1 近年の防水スプレーによる事故の傾向を教えてください。

1992年から1994年に多発した事故は、12月～3月のスキーシーズンに集中しており、主にスキーウェアへの使用による事故でした。それに対し、近年では年間を通して事故が発生しており、雨や雪のシーズンで多くなる傾向が見受けられます。

あくまでも推測になりますが、理由のひとつとして、衣類用のほか、皮革用、衣類・靴両用等、さまざまな製品が出回るようになっており、使用機会そのものが増えているのではないかと考えます。

Q2 吸い込むと、なぜ、呼吸困難や肺炎が引き起こされるのでしょうか。

これまでの検討により、呼吸困難や肺炎は、スプレーの細かい粒子を吸い込んで、撥水性の樹脂が肺胞に付着することにより、肺でのガス交換に支障を来すためと考えられています。また、溶剤による刺激性などの影響も考えられます。

Q3 90年代に事故が多発したあとの防水スプレーの安全対策について教えてください。

健康被害の起こりやすさは、成分の影響もありますが、同じ成分であっても、スプレーから出た「粒子の大きさ」と、スプレー対象への「付着率」が、健康被害に関係することがわかっています。粒子が小さく、付着率が低いと、吸い込みやすくなるため、重篤な健康被害を引き起こす可能性があります。

90年代に事故が多発したあとの安全対策として、成分のほか、吸い込みにくくするために粒子の大きさや付着率についても改良が行われ、製品表示等も工夫されるようになりました³⁾⁴⁾。

Q4 吸い込みやすい条件を教えてください。

使用した製品や使用量のほか、閉め切った玄関や室内など換気の不十分な場所での使用、マスク未着用なども大きく影響する可能性があります。

Q5 重篤な症状が出やすい患者背景を教えてください。

呼吸器疾患のある人や喫煙者、高齢者等は症状が重篤になる可能性があると考えています。

Q6 防水スプレー以外に注意した方がよい製品を教えてください。

防水スプレーと類似のメカニズムで起こる健康被害としては、紫外線カットをうたう衣類用コーティングスプレーでも同様の事故があったとのことで、消費者庁が注意喚起しています⁵⁾。

6. 参考資料

- 1) 石沢淳子, 辻川明子, 黒木由美子, 他: 防水スプレー吸入による急性中毒事故. 日本医事新報 1994; 3638: 47-50. 同 (第二報). 日本医事新報 1994; 3680: 49-52.
- 2) 中村晃忠.: 防水スプレー. (財) 健康・体づくり事業財団 平成7年度健康被害情報調査報告書1996; 45-80.
- 3) 厚生労働省化学物質安全対策室: 家庭用防水スプレー製品等安全確保マニュアル作成の手引 (第3版) (平成27年3月)
<http://www.nihs.go.jp/mhlw/chemical/katei/manual.html>
- 4) 日本エアゾール協会: 家庭用エアゾール防水スプレー製品等の安全性向上のための自主基準
- 5) 消費者庁: 消費者安全法の重大事故等に係る公表について (平成24年11月15日)

本資料を引用又は使用して資料作成・報道等を企図される場合は、必ず事前にその内容について日本中毒情報センター (本部事務局 電話: 029-856-3566) の承諾を得、「公益財団法人 日本中毒情報センターの調査による」旨明記して下さい。

以上